



2018.1.12 (センター試験前日) 農学部玄関前より学生食堂を望む
(稲葉一成氏 (昭62農工) 撮影)

松涛

No.35

2018. 3. 10

主な記事

同窓会長挨拶	2
学部長挨拶	2
今年度の活動計画	3
同窓会会計報告	4
農学部を去るにあたって	5
支部だより	6
職場紹介 株式会社ナルサワコンサルタント	9
恩師と語らう (楠原征治先生)	10
ペンリレー 同窓生からのたより	11
農学部フォーラム・国際交流	14
同窓生との絆を確認 (嵐丘庭草刈り)	15
学部だより	16
特集 近藤 亨先生	19
ネパールムスタンでの農業開発を志して	20

同窓会長挨拶



同窓会長 渡辺 仁

学部長挨拶



農学部長 末吉 邦

去る平成29年は、海外ではトランプ大統領の就任や各地での銃乱射事件、北朝鮮のミサイル発射問題など様々な出来事があり、今も緊迫した状況が続いています。国内では7月の九州北部豪雨や秋田県での河川氾濫など災害も多く、政治・経済・社会の分野でも話題が多い激動の一年でした。新潟大学では、37年ぶりとなる新学部「創生学部」が設置され、グローバル化した社会の課題に適應できる人材育成を目指すとしています。また、農学部は1学科体制に移行し、新しい5つの教育プログラムを通して、「生命」、「食料」、「環境」を担い、グローバル化に適應できる農学系の人材を育成するとしています。大学への運営交付金は年々減額され、大学運営は大変厳しいものとなつていく中で、大学独自に給付型奨学金制度、大学サポーター倶楽部やまなび応援基金、古本基金の創設など、学生支援の充実に向けた自己努力を進められていると伺っています。

私も、農学部の各県支部総会等にできるだけ出向き、学部の近況を報告するなどして、帰属意識の向上に向けた交流を進めています。昨年は、首都圏、長野県、福井県の各支部にお邪魔し、和やかに懇談させていただきました。各支部とも、若手の参加もあり今後が楽しみだと感じたところでした。また、学部への支援活動として、嵐丘庭の環境整備作業にも参加しました。同窓生、教員、学部生が協力して草刈りを行い、その後きれいなテラスで慰労会を開き、美味しいお酒を飲むことができました。昨年は、試行的に新潟県支部の農業工学系の同窓生にご協力をいただきましたが、今年は幅広く参加者を募り、環境美化と併せて、教員、学生との交流の一助になればと考えています。今後、こうした地道な活動を通して、同窓会を盛り上げていきたいと思つていますので、引き続きご理解とご支援を、何卒宜しくお願い申し上げます。最後に、会員皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



今年度も農学部同窓会には国際交流活動、志願者確保のための広報活動、農学部図書室の充実、卒業祝賀会などの諸行事に多大なご支援をいただいたおりに、渡辺仁会長はじめ農学部同窓会会員の皆様には農学部教職員を代表して心より御礼申し上げます。同窓会よりご寄贈いただきました嵐丘庭の木々はしっかりと根を張り、見上げる程成長いたしました。秋には、教職員総出で木道への木酢液の塗布や先輩方と一緒に草刈りもを行いました。今、嵐丘庭は多くの研究室やサークルがBBQパーティの場として利用する人気スポットとなつていきます。改めまして、平成29年4月より渡邊剛志前学部長に替わりまして農学部長を拝命しております。末吉邦と申します。どうぞよろしくお願いたします。この紙面をお借りし、ご挨拶がたがた農学部のこの一年の動きをご報告させていただきます。

大学にとって大きな改革の時となりました。この4月にはいよいよ県内に「新潟食料農業大学」が開学し、国立・福島大学と私立・高崎健康福祉大学では農学系学類・学部の31年4月開設の準備が進んでいます。これらの動きは、農と食に対する関心の高まりを示すもので大いに歓迎すべきことではあります。同時に各々の大学には特色ある教育・研究の提示が求められています。この様な中において、新潟大学農学部が今年度改組できましたことは実にタイムリーであったと言えます。ですが、これに安心することなく次の改革に向けて動き出す必要があるとも感じています。農学部の向かうべき将来像について同窓会の皆様からも忌憚のないご意見をいただければ幸いです。さて、新しい農学部について簡単にご紹介いたします。まず、これまでの3学科体制を、農学科1学科にし、その中に5つの主専攻プログラムを設けました。入学定員は155名から175名に20名の増となります。5つの主専攻プログラムとしては、新潟県の代表的産業であり、社会的要請の強い食品分野の教育研究に特化した「食品科学プログラム」、農学分野の教育研究の柱である「生命・食料・環境」に明確に対応した「応用生命科学プログラム」、「生物資源科学プログラム」および「流域環境学プログラム」、フィールド科学分野の教育研究に特化した理学部と農学部による学部横断型

「フイールド科学人材育成プログラム」があります。1学科制にするこ
とによって、学科の壁に阻まれるこ
となく、幅広い分野の学修が容易に
なり、分野や進路の選択がより柔軟
にできるようになります。入学選抜
は学部一括で行い、学生は入学後2
年次前半までに、全学共通科目と農
学部共通基礎科目で幅広い教養と専
門基礎知識を学び、2年次後半に各
プログラムに所属し、それぞれにお
いて専門知識と技術を習得すること
になります。学生は、入学後に自分
の所属するプログラムを決めること
になるのですが、出来るだけ希望に
沿うように何回か希望調査をしなが
ら分属先を決めていきます。もちろ
ん、希望のプログラムに入るために
は学生自身の努力も求められます。
また、教員の側も自分の担当するプ
ログラムの魅力や学生に積極的にア
ピールする活動をしています。皆様
も是非一度新しい農学部のHPを訪
れてみてください。

改組以外の農学部の動きをご紹介
いたします。マスコミ等で大きく報
道されましたように、5月9日、新
潟大学、新潟県、県酒造組合の三者
は、日本酒に係る文化的・科学的な
幅広い分野を網羅する学問分野「日
本酒学」の国際拠点形成とその発展
に寄与することを目的として、連携
協定を結びました。現在、大学では
経済学部や農学部が主導して、「日本
酒学」の講義の開講や研究センター
設立に向けての準備を進めています。
国際交流関係では、農学部は25年
度から文科省世界展開力強化事業に
採択され、トルコの3大学と連携し
て、農業、防災を学ぶ学生の交流事
業を始めました。26年度から毎年20
名以上のトルコの学生を短期・長期

に受け入れ、こちらの学生との交流
を図っています。一方で、農学部の
学生をトルコに派遣することは安全
面から控えていました。その代わり
農学部の学生とトルコの学生がタイ
のチェンマイ大学で合流し、3週間
の合同研修を実施しています。今年
度は8月に15名を派遣しました。参
加した学生たちは帰国時のチェンマ
イ空港でトルコやタイの学生たちと
涙を流して別れを惜しんだと聞いて
います。トルコ情勢も落ち着いてき
たことから、いよいよ2月に3名の
学生をトルコに派遣することになり
ました。近年活発な国際交流活動に
ついては、別に詳細な報告がござい
ますのでこちらもご一読ください。

平成24年度、附属フイールド科学
教育研究センター「佐渡ステーション
は「教育関係共同利用拠点」として
文部科学省より認定されましたが、
この間全国の大学の森林環境教育に
大きく貢献してきました。その実績
が評価され、今年度、佐渡ステーション
は共同利用拠点として再認定を受
けることができました。また、新潟
大学・刈羽村先端農業研究センター
も文科省と大学の支援を受け、順調
に研究業績を上げており、国内外で
の評価も高まっています。同セン
ターで中心となって活躍されている
先生方は、科学技術振興機構の助成
事業である「国際科学技術共同研究
推進事業（戦略的国際共同研究プロ
グラム）」を2件獲得し、欧州の研究
機関との国際共同研究プロジェクト
を活発に進めています。
教育面での特色として、農学部は
独自の就業力育成プログラムとして
インターンシップを軸とした「農力
開発プログラム」を4年間のカリ

組みを実施しています。このような
就業力育成プログラムの効果もあ
り、卒業生の就職率の高さは常に全
国トップクラスで、就職を希望する
学生のほぼ全員が就職できている状
況にあります。

以上、農学部の現状と活発な活動
の一端を紹介させていただきました。ま
た、農学部は新潟大学の中でも、ま
た他大学の農学部と比較しても少な
い教員数ながら充実した教育研究活
動を行っているところであります。し
かし、一方では、国からの運営費交付金の
削減等により、大学の予算はますます
厳しい状況にあります。全国農学
系学部長会議でも、全国の多くの大

2017年度活動計画

幹事長 箕 口 秀 夫

学において財政状況の悪化、それに
伴う教員採用の抑制が行われている
ことが報告されました。この農学部
においても例外ではありませんが、
その様な厳しい中にあつても教育と
研究の質は決して落とさないという
覚悟で教職員一丸となって踏ん張つ
ているところであります。同窓会会
員の皆様には今後とも農学部への変
わらぬご厚情とご支援を賜りますよ
うよろしくお願い申し上げます。
最後になりますが、同窓会会員の
皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念
申し上げます、就任のご挨拶とさせ
ていただきます。

- 引き続き在学生の学ぶ環境の整
備・改善を図り、更には農学部にお
ける国際化事業に対し支援を続ける。
また、利用者が増加し活性化が図ら
れつつある農学部図書室への支援。
気軽に、OG、OBから学部への訪
問を受け体験談を話してもらうため
の「農学部学生の就業力育成」に係
る支援など、保護者に同窓会活動へ
の理解を得るようしていく。「嵐丘
庭」を活用した特徴のある農学部同
窓会活動の活性化を図る。
- 1、「松濤」35号の発刊
 - 2、「嵐丘庭」の維持管理、有効活用
より充実した内容を企画して読ま
れる会誌を目指します。
 - 3、学部内諸行事への支援
 - 4、「卒業祝賀会」を支援します。
 - 5、農学部が行う国際交流事業、学術・
文化活動を支援します。
 - 6、農学部在学生のための農学部図
書室の充実支援
保護者から同窓会活動を理解して
もらうための具体的な支援を行いま
す。
 - 7、農学部学生の就業力育成に係る
支援
農学部学生の就業力育成にあたり、
卒業生による指導、助言のための講
演、研修会などの支援を行います。

2016年度新潟大学農学部同窓会 事業費決算報告 (平成28年5月1日～平成29年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	4,300,000	4,300,000	0	
前年度繰越	663,816	663,816	0	
利子・雑収入	471	39	▲ 432	利息 39円
合 計	4,964,287	4,963,855	▲ 432	

2. 支出の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 事務局費	600,000	491,901	▲ 108,099	全学同窓会役員会・支部総会出張旅費・通信・電話料・謝礼・消耗品費等
2. 会議費	460,000	158,510	▲ 301,490	常任幹事会支部役員出席旅費 会場使用料等は(総会開催会計で処理)
3. 名簿情報維持管理費	60,000	54,000	▲ 6,000	名簿データメンテナンス
4. 卒業祝賀会費	700,000	700,000	0	
5. 退職者記念品費	60,000	54,864	▲ 5,136	退職者(教員4名)
6. 嵐丘庭維持費	100,000	90,000	▲ 10,000	中庭下刈り2回
7. 「松涛」発行費	1,300,000	1,232,505	▲ 67,495	「松涛34号」「しおり」印刷、郵送等
8. 慶弔費	50,000	0	▲ 50,000	弔電、生花等
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	8支部(6支部35,000円、新潟県・首都圏支部各70,000円)
10. 学文活動助成費	250,000	141,595	▲ 108,405	文部科学省、大学の世界展開強化事業(トルコ)への支援
11. 全学同窓会負担金費	376,000	375,008	▲ 992	
12. ホームページ費	50,000	10,000	▲ 40,000	松涛34号、記事等掲載
13. 志願者確保対策助成費(高校訪問旅費助成費)	300,000	205,943	▲ 94,057	教員による高校訪問、出前授業、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実費	100,000	99,916	▲ 84	学生による希望図書の購入補助
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	5,850	▲ 44,150	農学部学生の就業力育成のため、農学部卒業生による指導、助言 旅費等
16. 予備費	158,287	0	▲ 158,287	
合 計	4,964,287	3,970,092	▲ 994,195	

3. 差引残高(A-B) 993,763円 次年度への繰越金

2017年度新潟大学農学部同窓会 事業会計予算 (平成29年5月1日～平成30年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	4,000,000	4,300,000	▲ 300,000	
前年度繰越	993,763	663,816	329,947	
利子・雑収入	39	39	0	
合 計	4,993,802	4,963,855	29,947	

2. 支出の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
1. 事務局費	600,000	491,901	108,099	全学同窓会交流会出席補助、役員会、通信、電話料、各支部への出張旅費、謝金・PCウイルスソフト等
2. 会議費	460,000	158,510	301,490	常任幹事会開催経費等
3. 名簿情報維持管理費	60,000	54,000	6,000	名簿情報メンテナンス等経費
4. 卒業祝賀会費	700,000	700,000	0	卒業祝賀会費補助
5. 退職者記念品費	30,000	54,864	▲ 24,864	退職者2名
6. 嵐丘庭維持費	100,000	90,000	10,000	
7. 「松涛」発行費	1,300,000	1,232,505	67,495	「松涛」「しおり」印刷、発送等
8. 慶弔費	50,000	0	50,000	弔電、生花代等
9. 支部活動助成費	350,000	350,000	0	支部活動助成(6支部 @35,000 首都圏、新潟県 @70,000)
10. 学文活動助成費	250,000	141,595	108,405	3大学合同研修会、FCシンポ、新大G.P、農学部フォーラム等
11. 全学同窓会負担金費	403,000	375,008	27,992	分担金
12. ホームページ費	50,000	10,000	40,000	HPメンテナンス等経費
13. 志願者確保対策助成費(出前講義旅費助成費)	270,000	205,943	64,057	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	99,916	84	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	5,850	44,150	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導、助言
16. 予備費	220,802	0	220,802	
合 計	4,993,802	3,970,092	1,023,710	

2016年度新潟大学農学部同窓会 基金会計報告 (平成28年5月1日～平成29年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科 目	前年度	今年度	増 減
繰越金	25,060,210	25,521,904	461,694
基金収入(入会金)	4,871,560	4,691,340	▲ 180,220
利子	30,230	2,778	▲ 27,452
合 計	29,962,000	30,216,022	254,022

2. 支出の部 (円)

科 目	金 額	備 考
事業費繰入	4,300,000	
総会開催関係経費	326,213	基金口座(第四銀行)より
合 計	4,626,213	

※平成28年度に開催の総会関係費用の一部を基金口座(第四銀行)より支出

3. 次年度への繰越金 (円)

科 目	金 額
収入合計	30,216,022
支出合計	4,626,213
繰 越 金	25,589,809



農学部を去るにあたって

退職にあたって

紙谷 智彦

(生産環境科学科)



私は昭和57年(1982年)に新潟大学農学部助手として赴任しました。その36年間で、

出身も新潟大学農学部です。大学院・研究生も含めると随分長い間お世話になりました。就職は昭和53年(1978年)で、当時の農林省林野庁に採用され、九州の国有林森林計画担当を皮切りに、宮崎の飫肥ではスギの巨木を伐採・搬出する直営事業所の責任者、出向した佐賀県では民有林行政も経験しました。震が関へ異動の話が出始めた頃、恩師の造林学教室丸山幸平先生から助手として採用したので、林野庁をやめてくれないかと電話がかかってくるようになりました。これが現在にいたる契機になりました。

スギ人工林、さらには休耕田の湿地再生から河川の自然再生まで、学生たちとともにフィールド調査に明け暮れた30年間でした。この間、農学部は2度の学部改組があり、大学院でも何度か専攻名が変わりました。それでも、一貫して生態学的な視点で森林科学の教育・研究に携わることができたのは幸いです。4年前に豪雪地のブナ林を上中下流のネットワークで地域再生に活かす「スノービーチ」(雪国のブナ)プロジェクトを立ち上げ、産学官の協働で運営しています。退職後も人とのつながりを大切にしながら、この活動を続けていきたいと考えています。

平成20年から下條文武学長のもとで副学長を務めた6年間では、キャリアセンター・学生支援センターの整備と管理運営、地域の教育力を活かすダブルホーム体制の改革と運営、新六花寮への移転などをとおして、学部の枠を超えた多くの学生との交流、教職員や地域の皆さまとの協働は貴重な経験でした。

農学部の嵐丘庭は、平成23年(2011年)の演習授業で生まれた学生のアイデアがベースになったと思います。農学部OBの榎グリーンシグマ平田俊彦社長がそれをもとに土壌基盤を重視して設計されました。小さな苗の驚くような後の成長に、教員基盤重視の効果が現れています。教育研究の成果を花咲かせるのも基礎が大切だと教えられているようです。箕口秀夫先生の指導で、そう遠く

い日に森のような庭に変わっていくことでしょうか。嵐丘庭をご寄贈頂いた農学部同窓会に感謝申し上げますとともに、同窓会員皆さまのご多幸とご健康をお祈り申し上げて、退職のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました

森井 俊廣

(生産環境科学科)



前任校の鳥取大学農学部より異動してきたのが一九九七年一月、以来、二〇〇四年度まで新潟大学農学部で

お世話になりました。この間多くの教職員の皆さま、卒業生の方々に会うことができ、そして支えられました。ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

京都大学大学院で農業工学を専攻したのち、大阪の土木コンサルタンで貯水ダム設計・施工管理に取組んでいたところ、縁あって、前任校に勤務し農業土木分野の教育研究に携わることとなりました。その後、豊田勝先生に声をかけていただき、新潟大学へ参ることができました。地域環境工学講座の土木構築学研究室が新スタートの場となりました。二〇年前、家族ともども北陸道を北上し、途次、高田平野、越後平野など遠い山裾まで広がる大地が目のあたりとなり、これまで見慣れない風景に気分を新たにしながら、つい先日のごこのようです。

土で盛り立てられたダムをアース

ダムあるいはフィルダムといい、農業に欠かせない用水を貯留する重要な役割を担っています。安全にかつ安定的に貯水機能を確保するために、土の中を流れる浸透水の動きを適切に評価することが大事であり、その予測技術にもつばら取り組んできました。「水土の知」の敷衍と実践といったところで、それが高じて、在職の後半では、土のキャピラリーバリア機能を活用した乾燥・半乾燥地域のかんがい農法の開発に取り組み、ここ数年ほど、パレスチナ西岸地区のラマツラを幾度か行き来しました。悠久の地に根を張る神々しいばかりのオリブの大樹に出会うこともでき、充足した気持ちになれました。

二〇〇四年度に、生産環境科学科の地域環境工学コースで技術者教育プログラムを立ち上げ、JABEEより認定を受けることができました。爾来、多くの有為な修習技術者/技術士補を輩出できたことは嬉しいところであり矜持としたいところです。これを契機に、教育・学生支援機構への兼職が始まり、最後の一年まで続くことになりました。一九九一年の大綱化で取組まれた教養教育に係わる学士課程教育の改革が、いま必ずしも十分な成果を出せておらず、当時喧伝された「魅力ある大学・教育づくり」が一層強く求められるようになってきています。新潟大学がこの嵐に屹立して進んでいかれることを期待しております。

新潟大学農学部同窓会のみならずのご発展と皆さまの一層のご活躍をお祈りいたします。ありがとうございます。

支部だより

◆北海道支部

本年度第二十一回目を迎える北海道同窓会の総会は、十月二十一日(土)に、十勝管内幕別町忠類にある「ナウマン温泉ホテルアルコ236」にて、アルカリ性単純温泉と静かな環境の中で開催となりました。ホテル横には、ナウマン象記念館、道の駅、JA農畜産物直売所では特産のゆり根もあり、見所も多くありました。

開催案内は毎回九十通ほど出していますが、当日、他の用務がある方も多く、総会出席者は七名でした。総会では、明田川会長(昭和四十五年農工)の挨拶の後、事業・会計報告・計画について協議し、それぞれ承認されました。

総会に続く懇親会では、篠島さん(昭三十八農学)による乾杯の挨拶のあと、近況報告等を行い、二時間余



り語り合いました。その後、二次会では、新潟の笹団子や道北の珍珠を食べながら、新潟の銘酒を飲み比べ、夜十時過ぎまで盛り上がりました。翌日も朝早くから温泉や朝食で相互交流を深めました。

次回の同窓会は、平成三十年秋頃、道央方面で開催することとしました。会員の皆様、どうぞ気軽に「ご出席の程、宜しくお願い致します。」

佐藤 誠一(昭60農化)

◆秋田県支部

秋田県支部では、平成29年7月8日(土)に、久保田城跡地である千秋公園内にある松下を会場に総会を開催しました。この松下は、「あきた舞子」と伝統的な建築技法や気品と空気を感ずることが出来る「旧割烹松下」を再活用した秋田文化産業施設で、平成28年にオープンしました。

私たちも年齢を重ねるにつれ、空間を感じ取る、いや感じ取らねばならないと思ひ、さらに「あきた舞子」という伝統文化を復活させた舞子も感じ取る『おとなの研修』も重ねあわせた気品あふれる総会となりました。総会では、小島会長(昭和52年農工)の挨拶の後、経過・会計報告、29年度事業・予算案について協議し承認されました。

また、12月2日には秋田市内で忘年会を開催しました。年2回の支部



活動に納まっている状況であり、出席者も少し寂しい人数での開催が続いておりますが、近況報告では、仕事やプライベートの楽しいエピソードで大変盛り上がりました。参加者からは、こうした情報を会員で共有できることが楽しみだから絶対に続けて欲しいとの嬉しい言葉もいただき、今後はさらに工夫を凝らした企画で活動を活性化させたいと思ひます。

工藤 英明(平7農生)

◆福島県支部

今年も、福島第一原発事故の後、震災復興、廃炉への作業、「燃料デブリ」の確認など進展の状況は不透明です。

この状況の中、7月29日(土)、福島市・ホテル辰巳屋に於いて、母校、新潟大学から佐野義孝先生をお迎えして、二年ぶりに、福島県同窓会が開催されました。

会長挨拶では、母校から、佐野義孝先生をお迎えして、大学の最近の様子をお伝えして戴くこと。先生のお話教え子も多数参加して、先生のお話



を懐かしくお聞きすることが出来る喜びについて述べました。続いて、佐野義孝先生から、新潟大学についてのご講話。内容には、卓越した研究拠点と高度な教育体制の中での新潟大学の様子であり、農学部の新しい組織、農学科一学科体制への変化。入学後のスケジュールの改革と主専攻プログラムなど、驚きの中での講話でありました。中でも、プログラム配属の選択においては、人気講座があり、学生の成績順で選択されるというのには、古き良き時代の学生生活であった河渡のキャンパスが、懐かしい思い出と共に、目に浮かびました。そして、懇親会では、今回には、参加者24名の出席が見られ、中でも、佐野先生の教え子、女子2名、第62回円谷祐未さん、第68回佐久間悠さんの方々が、福島県同窓会に華を添えて戴きました。

佐野先生のお席には、多くの教え子の皆さんが、二学生時代の思い出「なし」をみやげに、大いに盛り上がりを見せたりおりました。先生も、こよなく楽しい思いの中で、お過ごしになりました。引き続き、一次会、佐野先生を含めて、多

くの皆さんの参加を得て、盛大に開かれまして。学生時代の想い出をはじめ、世の中の出来事、職場での問題点、ご家族の様子など、心ゆくまで歓談の輪が広がられました。次回もまた集う人々への想いを胸に、支部活動の一層の高まりを祈念しながら、支部総会を閉会しました。

高久 英昭（昭32農）

◆首都圏支部

本年6月3日（土）東銀座のラウンジ日比谷において、第31回総会を開催しました。渡辺同窓会長を来賓としてお招きして30名が出席しました。渡辺会長から新潟大学農学部近況を報告して頂きました。その概要は、①農学部定員が155名↓175名に増員②日本とトルコの5大学が結集して防災を意識したレジリエントな農学人材育成③新潟大学・新潟県・県酒造組合が連携協定を締結の3点でした。総会では、村上支部長から平成28年度支部活動報告、吉田幹事が平成28年度第31期会計収支報告、西嶋幹事が会計監査報告を行い承認されました。その他に、奥澤幹事が退任し、昨年7月の農学部同窓会常任幹事会で制定された「新潟大学農学部同窓会個人情報保護規程」を配布し、首都圏支部もこの規程に準拠して活動することを佐藤が報告。

総会後、山田文雄氏／（独）森林総合研究所特任研究員（林学科S50年卒）から「放射能災害の6年 森林や野生動物への影響から考える」

という演題で講演をして頂きました。講演で、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質は、陸地の68%に当たる森林に蓄積され、落葉層や土壌表層に沈着している。そのため森林生態系における放射性物質の動態や野生動物への影響把握のためにモニタリングが求められている。小型哺乳類（アカネズミ等）は採食を通じて「内部被曝」や落葉層や土壌に沈着した放射性物質の「外部被曝」も起きている。放射性セシウムは事故後6年経過後も、土壌中には深く浸透せずに、リター層や土壌表面に留まっていることや、福島の野生動物アカネズミ体内では事故後6年経過しても、高濃度の放射性セシウムが滞留していることがわかりました。懇親会では、

河渡世代と五十嵐世代の年代のギャップは大きいのですが、ここ数年でその垣根も低くなってきたような気がします。世代を超えて親しくしています。

11月12日（日）アルカディア市ヶ谷（私学会館）において、第46回新潟大学首都圏同窓会総



会が開催されました。高橋学長を含む75名が出席し、農学部からは8名の出席でした。

石井正一氏（石油資源開発株式会社代表取締役副社長、経済S48年卒）が「日本のエネルギー問題」について講演を行いました。次年度の幹事学部である農学部・村上支部長が終わりに挨拶を行いました。来年の11月18日（日予約）農学部が7年ぶりに幹事学部となつて総会を開催しますので、首都圏在住の皆さんは大勢集まつて交流を深めましょう。

佐藤 純一（昭47農化）

◆新潟県支部

新潟県支部の活動報告をさせていただきます。新潟県支部は平成29年1月28日にアートホテル新潟にて第6回支部会を開催いたしました。いつものことながら、冬場の足下の悪い時期にもかかわらず、県内在住の卒業生52名の皆様から参加をいただきました。支部会前半の総会では渡辺同窓会長のご挨拶ののち、予算等についてご審議、ご承認いただきました。その後、同窓会幹事長の箕口先生から、農学部の近況や学部再編について映像を交えてご報告をいただきました。後半の懇親会では、年長者を代表して早川利郎先生（S33・第6回卒）の乾杯のご発声で開宴となり、和やかな雰囲気の中懇談が進み、出席者最年少の西野信之さん（H19・第55回卒）による中締めの後、全員で農学部学生歌を熱唱し散会となりました。なお会の途中で箕口先

生が平成29年度から副学長にご就任されること報告され、箕口先生からもご挨拶を頂戴しました。新潟県支部を代表して先生の今後の益々のご活躍をご期待申し上げます。

その他の活動では、10月29日に開催された全学同窓会・交流会には、当支部から多くの皆さんに参加をいただきました。出席いただいた皆様にご挨拶申し上げます。また支部長個人としてはあります。また支部卒業祝賀会（3月23日）や、嵐丘庭（農学部中庭）の草刈りボランティア（10月14日）に初めて参加する機会をいただきました。私も大学を卒業して30年以上になりますが、こういった機会を通じて母校・新潟大学の存在が再び近いものになってきているように感じています。新潟県支部は毎年1月の最終土曜日に支部会を開催することを基本としております。今後多くの会員の皆さんから出席いただき、大学のお膝元にある新潟県支部を盛り上げていきたいと考えております。

大嶋 良夫（昭58農工）



◆長野県支部

支部同窓会開催の10月22日は、超大型で非常に強い台風21号が東海地方に接近し、長野県内も午後から風雨が強まり出足が心配されました。

しかし、長野市内の会場に同窓会本部から渡辺同窓会長をお迎えし、県内から11名が参加して、無事開催することが出来ました。

総会の協議事項終了後、本部の渡辺会長から「農学部近況」についてご講演をいただきました。農業・農学を取り巻く情勢や新しい5つの教育プログラムなどについての話題も紹介いただきました。引き続き支部会員でもある県立南安曇農業高校の西澤校長から「農業教育について」の講演がありました。新大学生時代の様々な体験を生かし、農業教育者として実践的な専門性の高い学習を生かした実学を指導され、生徒たちが造園デザインコンクールで6年連続で文部科学大臣賞(団体最優秀賞)を獲得した事例の紹介がありました。農業教育の醍醐味をうかがうことが出来ました。



献や、歴史資料の解説など自治体の文化財保護に関わっているなど興味深い紹介があり、和やかな雰囲気です。時間を過ごすことができました。時間いっぱい交流会の最後に学生歌や寮歌など合唱して次回の再会を誓い合いました。

手塚 光明 (昭46農)

◆富山県支部



富山県の最近の農林業の話題は、41年ぶりに開催された全国植樹祭や富山米の新品種「富富」の販売開始など明るい話題が多くありました。こ

れら明るい話題を陰に陽に支える新潟大学卒業生が集まり、平成29年7月28日(金)、とやま自遊館(富山市)において、平成29年度支部総会・懇親会を盛大に開催しました。

当日は、農学部生産環境科学科の箕口先生をお招きしたところ、県庁農林水産部の暑気払いと重なったにもかかわらず、42名もの方々に出席していただきました。

総会では、中島清信支部長(S47卒)の挨拶と5月に新潟市で開催された同窓会総会の報告がありその後、昨年度の活動報告・会計報告が行われ、それぞれ承認されました。懇親会では初めに、箕口先生から

現在の農学部の写真等をプロジェクトで紹介しながら大学の近況や入試の変更点等についてお話ししていただきました。

次に新入会員の紹介が行われました。近年の新会員の参加は1〜2名でしたが、今年度は4名(県職3名、民間1名)の参加がありました。新会員は4名とも生産環境科学科の卒業生ですが、現在の職場はバラバラになってきているため、彼(女)たちにとってもいい同窓会になったのではないのでしょうか。一人ずつ自己紹介をしていただきましたが、先輩からの容赦ない質問に対して機転の利いた回答で会場を盛り上げていただきました。

最後は、毎年恒例の「農学部学生歌」「四季の新潟」を出席者全員で合唱し、楽しいひとときの終わりにしました。



石割 久晶 (平11生環)

◆福井県支部

福井県支部では、平成29年11月22日(水)に、福井市内で総会を開催しました。出席者は、2名の新会員(1)を含め例年より多い19名となり、和やかな雰囲気の中で楽しいひと時を過ごしました。また、本年度は、当

県支部では(おそらく)設立以来初となる、同窓会本部の渡辺会長をお招きしての開催となりました。

総会で、日下会長、本部の渡辺会長からごあいさつをいただいた後、手短かに会計報告、酔っぱらう前に記念撮影を行い、懇親会に移りました。

懇親会では、渡辺会長から大学の現状をご説明いただき、その変貌に多くの出席者が驚いた様子でした。

その後、恒例の各自の近況報告を自己紹介を交えて行い、最後に学生歌を歌って締めとなりますが、歌詞も用意していざというとき、事務局の不手際でCDプレイヤーが破損するアクシデントが発生してしまいました。私を始め、多くの出席者はこの歌に聞き覚えがありません。不安になりましたが、力強く歌ってくたさる先輩のおかげで、何とか乗り切ることができました。

今回、残念ながら参加できなかった福井支部の皆さま、次回はぜひご参加ください。

最後に、ご多忙の中、遠く福井までお越しいただきました渡辺会長様、どうもありがとうございました。

東 正樹 (平4林)



職場紹介

株式会社ナルサワコンサルtant

田 卷 翔 平 (平27・3修士修了)

【沿革】

株式会社ナルサワコンサルtantは1954年の創業以来60年余りに亘り、主に新潟県内における社会インフラ整備に関わる業務に携わってまいりました。特に農業土木系の建設コンサルtantとしては県内で最も歴史が長く、全国的に見渡してもこれだけの歴史を持つ会社はそう多くはありません。現在は本社、5つの支店（村上、新潟、長岡、柏崎、高田）および佐渡の出張所に加え、3つの営業所（妙高、富山、金沢）が存在しており、「地域密着型企业」として地域と共に歩み、地域社会の発展に貢献することを基本理念としております。

【業務概要】

当社は公共事業における計画および設計に関わる「建設コンサルtant」、公共事業施工の基礎とな

る「測量・調査」、事業用地確保の土台を築く「補償コンサルtant」の3つの事業部門を掲げる「総合建設コンサルtant」です。

「建設コンサルtant」部門では土地改良施設の設計やほ場整備等の農業土木分野から、河川や道路等の一般土木分野および下水道や都市開発等の都市計画分野まで各分野に専門者を有しており、各業務において地域の実情に見合った計画および設計を行っております。「測量・調査」部門では各公共事業において必要となる測量を担っております。各公共測量業務や流量観測業務に加え、近年注目されているレーザースキャナおよびドローンを用いた三次元データの測量についても、現在力を入れて取り組んでいるところです。

「補償コンサルtant」部門では、公共事業に伴う用地の補償に関連する業務を取り扱っております。

す。補償は8つの部門に分けられており、当社は北陸地方でも数少ない8部門全ての業務を受注しており、実績に関しても県内トップレベルを有しております。

その他にも洪水および地震等の災害発生時における調査から査定に至るまでの災害支援、また新潟県を通して中国黒龍江省との灌漑技術支援交流等様々な分野において社会貢献しております。

【当社の新潟大学農学部出身者】

当社の新潟大学農学部出身者は6名おり、全員が農業工学科および生産環境科学科の出身です。上は60代から下は今年度入社と、幅広い層が多分野において活躍しております。大学で学んできたことが業務に関連しているため、やりがいを感じながら日々業務に取り組んでおります。

【最後に】

当社では社内におけるより良い職場環境を作り上げるため、人間関係をより深めることを目的として様々な行事を開催しております。春先には研修旅行、秋にはレクリ

エーション（ボーリングや酒蔵見学等）、その他に各種懇親会等年間を通して催し事がございます。他の会社を見渡しても、ここまで社内行事が多い会社はあまりないと思います。

各行事および当社の業務に関する情報についてはインターネット上にホームページを開設しておりますので、興味のある方はご覧になってみてください。

(<http://www.narusawa-net.co.jp/>)



設計に必要な諸元を計測中。新潟県内の様々な現場に出ています。

楠原 三宅君と杉山君は、豚の骨軟骨症と鳥類の骨髄骨という、僕自身の研究人生の2大テーマを一緒に始めたふたり。非常に熱心で、当時は真夜中まで仕事をしてくれましたね。

三宅 先生の研究には先見性があつて、新しいことにどんどん挑戦させていただきました。その期間は僕の財産です。

杉山 研究者としての先生は厳しい面もお持ちでしたけど、学生との交流に積極的でした。

楠原 僕は学生と遊ぶことが大好き。春は花見、夏は学生と一緒に五十嵐浜で泳ぎ、忘年会は温泉巡り。研究室でもよく飲みましたね。

三宅 杉山さんが持ってきたのは畜産学科の会報誌？

杉山 はい。懐かしいので持ってきました。これは三宅さんが3年生の時のものですよ。

三宅 これは懐かしい。会報誌にはそれぞれが研究外のことも適当に書くんです。今のプログみたいな感じですよ。今はもうないんでしょう？

杉山 はい。こういう学科内や学生同士のやりとりは少なくなりましたね。僕は三宅さんにすごく教わったし、研究の意見が合わなかったり不真面目な仕事をしたら楠原先生には真剣に怒られました。楠原 私も年齢とともに穏やかになりましたね。この人たちの時が

一番厳しかったんじゃないかな。杉山 それもお互いの信頼関係の上で成り立っていましたよ。楠原 卒業して何十年経っても同じ時間を過ごした記憶は残っているもの。うちの研究室の200人

まで行きましたね。三宅 研究サンプルをもらうために私の運転で行きました。仕事の後は先方も交えて飲み会。いろいろな出会いがありました。楠原 研究ばかりに熱中すると視

と思います。杉山 先生の思いは今も研究室の伝統として残っています。三宅 学生時代に大変な経験をしたことがよかつたんだと、今は感じます。人間、下積みがあるから頑張れるんだとつくづく思いますね。先生は一人ひとりの論文を色鉛筆で直してくれました。

杉山 僕も学生の論文はできる限り丁寧に見るようにしています。これは先生の影響。自分が「これでいい」と納得しているものを直されるといのは、すごくいい訓練になる。

楠原 社会に出るといろいろな報告書があるでしょう。卒業生から「研究室での経験が役に立った」「レポートを上司に褒められた」という話をよく聞きます。とてもうれしいことですね。

杉山 「企画・実行・まとめ」という力こそ社会に出て役に立つ。先生は研究を通してこれを身につけてくださったんだね。

楠原 学生時代の経験は後になって分かるものが多いんです。ふたりとも今や立派な研究者ですが、卒業生というのはいくつになっても気になるもの。今のまま元気に続けていってほしいと思います。

新潟大学季刊広報誌 六花2016、AUTUMN (No. 18より引用)

シリーズ

恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



以上いる卒業生のうち10組以上が研究室内で結ばれています。しかも、まだ一組も離婚していません。三宅 それはすごい！楠原 そうそう、三宅君とは1ヶ月に1回の頻度で茨城県のつくば

野が狭くなる。若い人にとって出会いというのは特に大事だと思えます。学生の頃から学外の人と出会ってオープンな環境でディスカッションできる。そういう経験が社会に出てからは特に力になる

人が導きつくるもの

大塚 文也 (平21生環)

① 近況報告

私は学部卒業後、新潟県に林業職として採用していただき、現在は糸魚川で勤務しています。糸魚川に赴任してからの2年間は、豪雨による土砂災害や地すべりが多発したこともあり、災害現場の踏査から復旧計画立案、そして復旧工事の現場監督を主に担当しています。地域の安全安心を守り、住民の方に喜んでいただける仕事にやりがいを感じています。

② 趣味、または熱中していること

小学校1年生から続けている野球が趣味です。野球をすることができ環境があること、チームメイトがいてくれることに感謝し、全力でプレーしています。未来の息子とキャッチボールをすることが夢です。



③ 最近、感動したこと

糸魚川といえば「世界ジオパーク」、ご当地グルメ「ブラック焼きそば」、お笑い芸人「横澤夏子さん」などが有名ですが、平成28年12月の「糸魚川市駅北大火」を思い出す方もおられるかもしれません。あの痛ましい火事から1年が経ち、街は復興に向けて歩み出しています。駅近辺に向くと、いつも飲食店の方たちなど街の活気に驚かされます。傷跡が残る場所にあっても、そこに生きる人たちから元気をもらい、街とは「人」なのだ感慨深く感じました。

④ 学生の皆さんへ

30歳の自分を想像したことがありますか？私は当時の想像とはかなり違う人間になっているように思えます。コミュニケーション力、柔軟性、度：どれも社会で大切なことなのでしょうが、基本にあることは、アンテナを張って「きき」、人を「みる」、そして自ら考えて決断することだと私は考えます。周りは人生のお手本。人との出会いを見逃さず、人から学んで選択の幅を広げてください。それがきつと想像を超えた未来への道標になります。

⑤ 次回の執筆者の紹介

相澤賢太郎さんです。私の1学年後輩で、新潟県を共に盛り上げていく同僚です。よろしくお願いします。

ありのままに

布野 隆之 (平11生環)

① 近況報告

兵庫県立人と自然の博物館で研究員をしています。調査・研究をはじめ、教育やシンクタンク活動など、様々な業務に携わっています。



また、恩師の先生方や大学時代の先輩・後輩と一緒に活動することも多々あります。

刺激的な職業で、いつもワクワクさせられています。

② 趣味、または熱中していること

育児、研究、カヤックです。育児は「癒し」、研究は「興奮」、カヤックは「感動」といったところです。どれも甲乙つけがたい大切な生きがいです。

③ 最近、感動したこと

自分たちの結婚披露宴で号泣しました。中学・大学の友人をはじめ、お世話になった方々の温かい拍手に迎えた瞬間、これまでの人生が報われたように感じ、涙をこらえることができませんでした。人生最高の感動でした。

④ 大学、同窓会、学生の皆さんへ
のご意見、ご提言

私は、新潟大学に十六年間も在籍し、博士号を取得しました。この間に学んだことは、「やり切ることの重要性」です。やり切ることで、次の道は必ず開けます。歳月を気にしてはいけません。大切な事は「やり切る」こと。その結果、十六年経つても良いのです。ありのままに、自分の道を進むことが大切です。

⑤ 次回に執筆していただく同窓生の紹介

生環同期の西嶋雅人さんをお願いしました。よろしくお願ひします。

「薪割り」は奥が深い！

倉澤 政則（昭60農）

① 近況報告

第2の故郷である五十嵐砂漠を、そして、なぎさ荘を後にして、33年の年月が流れようとしています。卒業後は、群馬県庁に就職し、主に米大豆ソバ等を担当する普及指導員として現場を駆け回り、現在は、ドラマ「陸王」にも登場した群馬県



庁舎内で働いています。

現在勤務している「農政部 技術支援課」は、147名の普及指導員が現場で展開する普及活動のとりまとめや、気象災害対策、鳥獣害対策、担い手の育成、GAPや環境保全型農業の推進、農薬の安全使用や新病害虫への対応などが守備範囲です。日々、悪戦苦闘していますが、農業・農村の振興のために、あと5年？頑張ります。

② 熱中していること

それは「薪割り」です。我が家のメイン暖房は「薪ストーブ」で、柔らかな暖かさ、ゆらゆら燃える炎に癒される毎日。その快適さに必要

なのが「薪割り」ですが、非常に手がかり、また、奥が深く、毎年、色々なことに気づかされます。やってみるとやみつきになりますよ！

③ 最近、感動したこと

昨夏、畑に「ハクビシン」が来襲しました。ハクビシンは、甘いスイートコーンだけを徹底的に食害し、隣接するポップコーンには手を付けませんでした。ハクビシンの洗練されたグルメ志向にはとても感動しました。今年は、狩猟免許を取得して、「知恵比べ」したいと思います。

④ 同窓生・在学生の皆さんへ

大学時代のクラス、クラブ、アパートなどでの偶然の出会いとつながりは、とてもありがたく、大切なものだと感じています。私自身、新潟時代の同級生・先輩・後輩に、公私ともに何度も助けられています。

⑤ 次回の執筆者の紹介

今回は、農学科の同級生で野球部OBの、小澤康弘君を紹介します。小澤君は、卒業後アメリカに渡り、現在は、群馬で米・麦・野菜+肉牛の大規模農業経営を実践する群馬県農業のトップランナーです。

数えてみたら新大に14年間も
在籍していたようです

山本州平（平11応生）

① 近況報告

富山県にある「株式会社ウーケ」に勤務しています。弊社は2007年に創業した無菌包装米飯（パックごはん）のメーカーです。業界で唯一、国際的な食品安全管理認証であるSQFを取得し、添加物不使用で高品質の製品を製造しています。私は品質保証部に所属していますが、歴史の浅いメーカーということもあり、様々な業務を担当する忙しい日々を送っています。

その為かは定かではありませんが、未だに独身です。

② 熱中していること

毎日が自宅と会社の往復なので、年に数回は独り旅に出るようになっています。ここ数年は「甲冑着用して写真撮影」にハマっています。京都にある時代劇関係のスタジオでメークや付け髷をして写真を撮るのですが、歴史や時代劇が大好きな身としては大興奮の非現実的体験です。

③ 感動したこと

商品開発も担当業務なので、開発した商品が店頭に並ぶのは感動します。ロングセラーになっっているものや、すぐに終売になったものなどいろいろありますが、どれも思い入れがあります。

④ 大学、同窓会の皆さんへ

振り返ると会社を早々に退職して復学、博士号を取得後に就職が無くて研究室で居候状態、新潟大学地域連携フードサイエンスセンターで勤務と、波乱万丈(?)な新潟生活でしたが、色々な経験が活かしている事を実感する日々を過ごしています。遠回りしているのかな?と思うよう

な経験も人生には必要だと思います。

⑤ 次回の執筆者の紹介

研究室の後輩である馬場達也君にお願いしました。

福島県でがんばってます!

瀧田 克典 (平16農生)

平成16年3月に農学部を卒業し、その4月から福島県の農業系職員として勤務しております。学生時代は家畜管理、今は福島県庁で社畜として管理されています。



ご存じのとおり、福島県は3・11の震災から一変し、6年以上経った今でも復旧・復興が最大の業務で、当初予算は平成29年度で1兆7千億円です。人口規模が全く違う埼玉県が1兆8千億円ですので、いかに予算と業務が多いか分かります。 (ちなみに、新潟県は1兆2千億円)

この膨大な予算を新潟県とほぼ同じ数の職員で執行しています。大変な一方で、他県では考えられない仕事がたくさんできます。日本を飛び出し、台湾やニューヨークで仕事を行う機会がありました。(写真は台湾



写真中央が筆者

で福島県産日本酒をPRした際のものです)

プライベートでは、釣り、バイク、ポケモンGOが好きです。釣りはルアーで青物(あまり釣れない)、バイクはニンジャ(あまり乗らない)です。また、ポケモンは海外限定もいくつかゲットしました!

最後に、福島県では毎年、優秀な農業系職員を募集しています。熱意と折れない心があれば大丈夫です!海外に行けて、ポケモンもゲットできます!一緒に福島県を盛り上げる仲間をお待ちしております。

・次回の執筆者の紹介
現在福島県庁に勤務されている先輩の赤塚康雄さんをお願いしました。



「新潟大学カード」入会のご案内

◆新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三井住友VISAと提携して「新潟大学カード」を発行しています。

入会費
年会費
無料

この機に是非ともご入会を!

※詳しくはホームページ
<http://www.niigata-u.ac.jp/douseikai/card/> をご覧ください。

第22回農学部フォーラム 第8回新潟大学・刈羽村先端農業 バイオ研究センターフォーラムの報告

KAABセンター長 三ツ井 敏 明

2017年8月26日(土)に、第22回農学部フォーラム/第8回新潟大学・刈羽村先端農業バイオ研究センターフォーラム(刈羽村、新潟県、新潟県酒造組合、新潟大学農学部同窓会後援)を開催しました。今回は、「日本酒学&焼酎学の最前線」と題して、新潟大学付属図書館ライブラリーホールにて実施しました。

焼酎の製造、歴史、文化、経営実学まで幅広い教育と研究が行われています。講演会では、産学官から鮫島吉廣、鹿児島大学客員教授、鍋倉義仁、新潟県醸造試験場専門研究員、鈴木一史、農学部准教授、岸保行、経済学部准教授、そして、大平俊治、新潟県酒造組合会長を講師として招きその動向を紹介していただきました。講演の中で盛んに述べられ、強く印象に残った議論として、理系・文系の枠組みを超えた「日本酒学」と「焼酎学」の確立と発展における医学分野の貢献の重要性がありました。高橋学長は、フォーラムを最初から最後まで熱心に講演を聞かれ、真摯な態度で質疑・議論にも参加されておられました。本フォーラムについては、132名の参加を頂き、一般市民、醸造関係者、農業関係者からの関心が高く、また、多くの学生が文系・理系の区別なく参加していました。加えて、マスコミからの問い合わせも多数あり、新潟日報、朝日新聞に

フォーラム開催について掲載されました。新潟大学の「日本酒学」に対する関心の高さと期待感、そしてこれからの動向を注視する姿勢がひしひしと感じられました。

最後に、末吉農学部長から閉会のご挨拶がありました。講師の先生方、高橋学長、品田村長、そしてフォーラムに参加されたすべての方々へのお礼とともに、KAABに対し、「今後ともタイムリーで魅力的な取組をさらに積極的に実施してほしい」と述

農学部における国際交流について

農学部国際交流委員会委員長 岡崎 桂一

新潟大学は、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択されており、この事業で新潟大学は、福島大学およびトルコの三大学(アンカラ大学、エーゲ大学、中東工科大学)と連携し、「経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成プログラム」を学生に提供中です。この他にも、毎年、刈羽村先端農業バイオ研究センター(KAAB)国際シンポジウムを開催して、本年度はイタリアACREA、名古屋大学、大阪大学より講師を招聘したほか、若手研究者・留学生(米国、モロッコ、エジ

べられました。本フォーラム開催にあたりましてご協力賜りました皆様、ご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



プト、トルコ、タイ、中国、バンングラディシユ)が参加しました。他にも学部では国際交流に携わる機会が増え、国際交流がますます盛んになっていきます。平成三十年度は、マレーシアプトラ大学農学部と協力して Joint Symposium of the 8th International Agriculture Congress 2018 and 6th International Symposium for Food & Agriculture 2018 を11月13日~15日にマレーシアで開催します。新潟大学農学部からは、学生や教員が参加し研究成果を発表します。卒業生で参加ご希望の方は、ご連絡下さい。

平成29年度新潟大学農学部国際交流実績および予定

イベントの名称	受け、送り	日時	場所	参加者人数
保護者懇談会（交流実績紹介）	-	4月5日	朱鷺メッセ	147名（保護者：131名、教員：13名、事務職員：3名）
留学ガイダンス	-	4月26日	農学部	教員6名、学生30名、事務職員：4名
大学の世界展開力強化事業（トルコ）2017年度第1回シンポジウム	受入れ	5月18日	農学部	62名（教員：20名、事務職員：11名、院生：9名、学部生：14名、外部：8名）
農学部後援会総会（交流実績紹介）	-	6月24日	農学部	70名（保護者：61名、教員：6名、事務職員：3名）
フジイコーポレーション、JICAプロジェクトおよびトルコ訪問団来校	受入れ	7月12日	農学部	フジイコーポレーション3名、研究員8名（トルコ）、本学教員5名
大学の世界展開力強化事業（短期学生派遣）	派遣	8月10日-27日	チェンマイ大学	21名（新潟大学・福島大学）（引率教職員4名、院生8名、学部生9名）
大学の世界展開力強化事業（短期学生受入）	受入れ	8月18日-9月17日	新潟大学 福島大学	留学生15名（院生1名、学部生14名）
ロシアサマースクール	派遣	9月4日-10日	ウラジオストック	学部生2名
大学の世界展開力強化事業（トルコ）2017年度第2回シンポジウム	受入れ	9月13日-14日	農学部	188名（教員30名、事務職員21名、院生29名、学部生21名、外部学生・留学生54名、学部生33名）
大学の世界展開力強化事業（中長期学生受入）	受入れ	随時	農学部	トルコ留学生（院生7名）
世界農業学生会議	受入れ	9月19日-26日	農学部	インドネシアなど数名
K A A B国際シンポジウム	受入れ	9月25日	農学部	90名参加（職員17名、学生62名、外部7名）
農学部FD（イギリス、University of Hertfordshireの紹介）	受入れ	10月18日	農学部	講師（Dr. Henrik Stotz）、本学教員数名
留学生と指導教員の懇親会	受入れ	12月14日	農学部	留学生、その家族、チューター：56名、教員：21名、事務職員：3名
大学院GP（ベトナム農業大学、ハノイ工科大学）	派遣	12月5日-14日	ハノイ	院生12名、学部生3名、教員3名
農学部FD（バングラデシュ、シレット農業大学の紹介）	受入れ	1月上旬予定	農学部	講師（Dr. Mozammel Hoque）
大学院GP（タイ、カセサート大学）	派遣	1月18日-27日	ハノイ	院生12名、教員2名
ロシアウインタースクール	派遣	3月12日-21日（予定）	ウラジオストック	学部生8名、教員1名
大学の世界展開力強化事業（短期学生派遣）	派遣	3月12日-21日（予定）	トルコ	8名（新潟大学・福島大学）（引率教職員3名、院生3名、学部生2名）

同窓生との絆を確認

嵐丘庭草刈り

嵐丘庭の草刈りと懇親会を通して同窓生、学生、教員間の結束を確認しました。

大学祭が開催される一週間前の10月14日（土）の午後、農学部の顔である嵐丘庭の化粧を行いました。

これは、5月の常任幹事会の席上渡辺仁会長からの提案を実行したものです。

当日は、末吉農学部長、渡辺会長、大嶋新潟県支部長を始め30名が参加してくれました。

例年、年2回業者に除草を発注し維持管理を行っていたものです。今後可能であれば、

初夏及び秋の2回広く同窓生・学生に声を掛け、花より懇親会に向け一汗流したいものです。

なお、今後は農学部同窓会のホームページに日程等を掲載します。

同窓会事務局

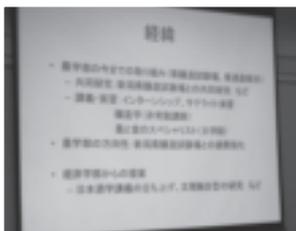


新潟大学農学部常任幹事会が開催されました

平成29年5月27日(土)、アートホテル新潟駅前(昨年度の開催ホテルの名称変更)において、常任幹事会が開催されました。

各県支部長はじめ職域から選出された常任幹事37名が出席し開催されました。

例年のとおり活動報告・活動計画の承認後、学部の近況について、若手の在校幹事である①大竹憲邦「H05農化」先生から嵐丘庭の現状と活用、②鈴木一史「S63農化」先生から日本酒学、③鈴木一輝「H24応生」先生から大学の世界展開力農学部の場合、についてミニ講演方式で報告がありました。



学部だより

新任教員紹介

生産環境科学科

准教授 森 口 喜 成



新潟大学自然科学系テニユアトラック助教を経て、平成28年10月付で着任しました。本

学農学部生産環境科学科、修士課程を経て博士課程修了後は、茨城県つくば市の森林総合研究所で研究生生活を送ってきました。約15年ぶりに母校に戻ってきましたが、学生時代に住んでいたアパートも行きつけの定食屋もなくなっていて、時代の流れを感じました。その一方で、図書館は綺麗になり、構内にコンビニができ、農学部中庭(嵐丘庭)が新しくなりました。私が新潟大学に戻ってきた平成25年度に再生整備された嵐丘庭には、新潟の森林を代表する様々な樹種が植栽されています。今年10月に農学部同窓会主催で嵐丘庭の草刈りを行いました。樹木の成長を見るのが毎年楽しみです。厳しい寒さにも負けず少しずつ大きくなるこれらの樹々と同じように、私

も教員として成長していきたいと思っています。

専門分野は林木育種学と森林遺伝学です。現在は主に、指導教官であった平英彰元教授が発見した花粉を全く飛散させない「無花粉スギ」を引き継ぎ、新潟県森林研究所等と連携して研究を進めています。どうぞよろしくお願ひします。

生物資源科学プログラム

助教 大 谷 真 広



皆さま初めまして。平成29年4月より農学部生物資源科学プログラムに助教として着任

いたしました大谷真広(おおたにまさひろ)と申します。私の新潟での生活は長く、修士課程から新潟大学へ入学し、学位取得までの5年間、そして博士研究員、特任助教として2年間を農学部の建物で過ごしました。花き園芸学を専門としており、花の色や形などの見た目を決定づける分子メカニズムの解明、およびバイオテクノロジーを用いた新品種の作出について研究しています。私がちょうど学部生だった頃、『不可能』の代名詞とされていた青いバラが遺伝子組換え技術により作出されました。そして、その話題性は当時他分野の研究に携わっていた私の興味を現在の研究分野に向けさせるのに十

分でした。私の人生はその研究に大きく狂わされ：ではなく良い方向に引き上げてもらったのですが、今度私の研究で一般の方や学生の方にオツと感じてもらえるように頑張りたいと思います。まだまだ知識も経験も浅い自分の取り柄は若さしかありませんので、アラサーの星としてバリバリ研究・教育に邁進していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

農家と共に

野中昌法先生を偲んで

原 田 直 樹

(農学部准教授)

野中昌法先生が2017年6月9日にご逝去されました。63歳でした。野中先生は、1987年7月に農学部助手としてご着任後、1996年1月に助教、2006年4月に教授にご昇進され、30年の長きに渡って本学に奉職されました。その間、応用生物化学科長の他、大学院技術経営研究科長や環境安全推進室長を歴任されました。また国際交流に熱心に取り組まれ、文科省「大学の世界展開力強化事業(トルコ)」の採択に尽力されました(2015年度より事業開始)。さらに、日本有機農業学会では理事・副会長を務められました。

農学部 農学部の動向

学会賞等受賞

- 稲葉一成（昭和62年卒・農業工学科）農業農村工学会 平成29年度優秀報文賞
- 島本由麻（平成25年卒・生産環境科学科）農業農村工学会 平成29年度優秀報文賞
- 島本由麻（平成25年卒・生産環境科学科）農業農村工学会京都支部研究奨励賞
- 島本由麻（平成25年卒・生産環境科学科）大学女性協会 国内奨学生受賞
- 鈴木哲也（生産環境科学科）農業農村工学会 平成29年度優秀報文賞
- 吉川夏樹（生産環境科学科）農業農村工学会 平成29年度優秀報文賞
- 関矢 稔（昭和59年卒・農業工学科）農業農村工学会 平成29年度優秀報文賞
- 上田次郎（平成25年卒・応用生物化学科）日本セトロジー研究会

野中先生のご専門は土壌環境学・土壌微生物学で、植物根に共生するアーバスキュラー菌根（AM）菌の多様性や環境因子の影響、AM菌を用いた自然環境修復等の研究を手掛けられ、また土着有用微生物を生かす農業として有機農業へと関心を広げていかれました。

先生は環境問題にも造詣が深く、2011年3月の福島第一原発事故以降は、農地及び農産物の放射性物質汚染の実態把握と汚染防止、農家の生活環境における被ばく低減等の課題に地元農家と協働して取り組み、福島の農業復興に注力されました。その歩みは、新聞やTVで幾度も取り上げられた他、ご自身でも「農と言えぬ日本人」（コモンズ社）などの著書にまとめられております。

野中先生は一貫して現場主義を貫かれ、そのため多くの農家の方々に慕われておいででした。こうした先生の生前の教えに深く感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌。

遠藤治郎先生の思い出

岩井 淳治

（平7林）

遠藤治郎先生は去る平成29年6月永眠されました。

私は、最後の林学科の学生として先生と幾ばくかの関わりがあり、若

干先生のエピソードのご紹介をいたしました。生前の先生のご活躍を偲ぶこととさせていただきます。本来であれば、もつと関わりの深かった学生や諸先生方がよりふさわしいところですが、編集委員からのご指名をいただいたご縁から、関わりの少ない私が駄文をしたためておりますことをここでお断りしておきます。

砂防運材工学科教室（以下砂防教室）3年生は北陸地方建設局管内の砂防事務所へ2週間研修に行く習わしがあり、立山、松本、飯豊などの各砂防事務所へ夏休みの間を利用して出かけておりました。私は先生のおすすめた立山砂防へ行かせて頂きました。あまりまじめでなかった私になぜ砂防のメッカである立山に行つたのか、今では全く思い出せないので、山の上の現場へ行くのにトロッコ列車に乗っていくという貴重な経験をさせて頂きました。いまでも時々思い出します。

4年生の時、同じく砂防教室の竹内君の卒論の手伝いで、菅名岳の麓で水生昆虫の調査をしていました。

彼は車を持っていないため、遠藤先生はそういった学生に家用車を貸してくれました。真っ白なレガシイツーリングワゴンでした。私も一度運転したことがあり、新車かそれに近い状態だったと思われるんですが、学生だけの調査に貸し出すなんて、本当に太っ腹だったなあと、菅名岳の付近に行くたびに、ニコニ

コして車を貸してくれた先生を思い出します。

そういえば先生の運転、キープレフトを遵守されており大変安全運転でしたが、白線すれすれをキープレフトで走るのが印象的でした。前の車がキープレフトしているのを見ると、また先生を思い出します。

平成6年頃だと思いますが、先生は学内で交通事故に遭われ、入院されるというアクシデントがありました。無事退院されたとき、退院祝として砂防教室の学生は先生から飴を頂きました。今思えば高麗人参エキス入りの高級飴なのですが、そういった大人の味に疎い学生達は、「カブトムシの味」がするとか、「激まず」などと言ひ、特別に「治郎（先生）飴」と名付けて、この飴をなめることがとうとう罰ゲーム的な位置づけになりました。私は、よくゲームなどに負け「治郎（先生）飴」を人一倍頂いたものです。それ以来、カブトムシの匂いをかぐたびに、またまた先生を思い出しています。

さて、遠藤先生の研究業績のご紹介などもしなければならぬところですが、紙面の都合もありますので、それは皆様に委ねて失礼させていただきます。駄文をお読み頂いた方それぞれ遠藤先生の思い出をかみしめて頂くきっかけとなりますよう祈念いたします。末筆ながら先生のご冥福をお祈りいたします。

最優秀発表賞（ポスター）

○田玉 巧（平成29年卒・生産環境科学科）平成29年度森林技術研究論文コンテスト林野庁長官賞

○渡部 潤（平成14年卒・応用生物化学科）日本生物工学会奨励賞（江田賞）

○高橋 航（平成29年卒・生産環境科学科）土木学会応用力学委員会優秀ポスター賞

学位取得

○佐伯なつみ（平成24年卒）農業生産科学科、博士（農学）新潟大学
○鈴木一輝（平成24年卒）応用生物化学科、博士（農学）新潟大学
○松澤大起（平成20年卒）応用生物化学科、博士（農学）新潟大学

退職

当農学部及び新潟大学のため多大な貢献をされたお二方の先生方が平成30年3月に定年退職されます。

紙谷 智彦教授（生産環境科学科）
森井 俊廣教授（生産環境科学科）

ご功績に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

教員計報

遠藤治郎元教授（生産環境科学科）

平成29年6月ご逝去

野中昌法教授（応用生物科学科）

平成29年6月ご逝去

山本興三郎元教授（畜産学科）

平成30年1月ご逝去

石田一夫名誉教授（農業生産科学科）

平成30年1月ご逝去

佐野 元 農専元教員

平成28年10月ご逝去

謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員計報

高橋（宮島） 堅（昭23・3農専農）

中森 章（昭23・3農専農）

佐野 章（昭24・3農専林）

渡辺 照男（昭25・3農専林）

保坂 亮（昭28・3農専）

渡辺 謙（昭28・3農専）

吉成 孝（昭30・3農専）

小林（小黒） 哲郎（昭31・3農専）

小島 寛二（昭32・3林学）

田邊 孝行（昭32・3農学）

阿部 利夫（昭33・3農学）

斉藤 伸昭（昭33・3林学）

石沢 進（昭34・3農学）

亀山 悦典（昭35・3農学）

吉田 勇（昭37・3農学）

狩野 誠（昭38・3農学）

五十嵐 宏（昭42・3農芸化）

酒井 仙吉（昭46・3畜産）

味方 登（昭49・3農工）

京谷（伊藤） 薫（昭51・3農学）

望月 正平（昭51・3林学）

渡辺（井上） 賢二（昭57・3農学）

有坂 英一（昭60・3農学）

（卒年次順・五十音順）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

同窓会事務局からのお願い

住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業の根幹であり、運営の基となる貴重な資料です。

住所を変更された場合は、左記により農学部同窓会事務局までお知らせください。

住所変更の連絡方法

① 官製ハガキまたはFAX

025-263-3107

② E-mail:

dousou@agr.niigata-u.ac.jp

編集後記

昨年、何気なくテレビを見ていたら、世界ふしぎ発見「謎のムスタン王国と奇跡を起こした日本人！」という番組で近藤亨氏の偉業が放映されていました。今回首都圏支部の佐藤純一氏からのご提案をいただき、特集記事として同窓会長をされた小林一三さんに寄稿をお願いしました。小林さんは近藤さんの活動中及びその後もバックアップをされています。小林さん、ありがとうございます。ところで、みなさんは同級会やつていますか？ 昨年、同期農学科＋一部林学科の同級会がありました。同級生はイイものですね。その時の林業女子からひと言。同級会を呼びかけても同級生からは梨のつぶてだそう。みなさん、呼びかけがあったら返事くらいはしてくださいね。さて、今冬JR車内での一晩が話題になった新潟の大雪。五十嵐キャンパスも1m超えかという降り方で、ちょうど大学ゼンター試験と重なって大変だったそうです。記録の意味も込めて表紙写真に使わせていただきました。（ペンリレーの校正は編集委員会で行いました。ご了承ください。）



近藤 亨 先生

「ネパール、ムスタンでの活躍とそれを支えた人々」

新潟大学農学部同窓会 元会長 小林 一三

若いときから密教を学び、釈迦の

生誕したネパール王国や求道のため
ムスタン王国からチベットを歩いた
河口慧海師のこと、さらにアジア文

明の源流を観たいという願望を抱い
ていた時期に、先生はジャイカを退
職し、単独で渡った。秘境ムスタン

の農業開発に夢を抱かれ、当時私は
建設省の指導の下、ネパール自然災
害軽減支援プロジェクトの現場事務

所の開所式に出席したとき、古都パ
タンで先生を紹介されました。以後、
今日まで多くの同窓会並びに農学部

とくに村松にある伝習農場、加茂農
林高校の方々には大変なお世話とご
支援を頂きました。

近藤家は、加茂市元狭口の素封家
で菩提寺は、私の兄が住職であった
薬師如来を本尊とする金泉寺であり

ます。今はこの地に「夢。馬の背に
揺られて仰ぐムスタンの夕映えもか
なし渡り鶴行く。」狭村、顕彰碑の下

で眠っておられます。

さて、近藤亨先生の功績の代表的
なものをいくつか写真を添えて記し
てみます。

「ウンヒョウ」(雲豹)

先生が一九七五年のジャイカでの
予備調査のとき、ムスタンで採取さ
れた雲豹の毛皮を、当時のビスタ国
王から先生に贈られ、その後京都の
西野剥製社に依頼し、立派な標本が
できました。現在は長岡市立博物館
に展示されております。

絶滅保護動物であるウンヒョウは
トキについて貴重な品で、その手続
きには岩本二郎学芸員に大変な時間
と労力をおかけしました。

「農業研修生の受け入れ」

秘境ムスタンの農業開発を目指し
た先生は、太古から耕されたことの
ない寒冷、不毛、石礫の荒野を村の
若者達と開墾されました。今やアッ
パームスタンには、二〇〇ヘクタール

のグミ農場が、アンダームスタン

のシヤンには四五ヘクタールのテニ
農場が、緑滴る沃野に蘇っております。
す。

これまでには幾多の困難がありま
した。なかでも特異のことは、現地
の若い技術者の教育や育成です。さ
らにそれを支援する組織づくりであ
りました。

農業技術者の育成、研修のために
先ず選ばれたのが、我が農学部であ
りました。これを受け入れた先が、
亀田郷土地改良区、小合園芸組合、
村松の伝習農場、その他専業農家、
村松森林組合等の方々でした。

研修は四人チームで三ヶ月間行
い、これを三年間継続しました。勿
論衣食住は自坊を開放してのことで
ありました。

研修を終えた若き俊英たち十二人
は、帰国後も先生の厳しい指導のも
と、今では農場の維持発展のリー

ダーとして活躍し、しかも観光、教
育面でもムスタンの開発、発展に努
力しております。

「先生の惜別の辞」

近藤先生を支えて二十年。NPO
法人ネパール、ムスタン地域開発協
力会の解散にあたり、惜別の辞が寄
せられました。

「この農場はこの地に最適な作物
のリング栽培と大中小家畜の多頭飼
育を二本柱としたことや、無農薬、
無化学肥料の完全な有機農法を厳守
していることなど、祖国日本でも殆
ど類を見ない農場です。

幸いにも若木もようやく収穫期に
入ったとき、高齢でも意気軒昂な私
は本事業を放擲などできません。そ
こで「ムスタン白領会」を結成し引
続き支援することを願ひ、老躯に鞭
打って、極貧に泣く村人達の友とし
て、生命ある限りムスタンの農業開
発に働き続ける覚悟」とありました。

この意志を受け私たちは以後支援
の輪を広げる努力をしております。
おわりに「松寿」編集委員各位に
厚く御礼申し上げます。

(NPO)法人ネパール

治水・砂防技術交流会

理事長 小林一三

近藤 亨 先生

「ネパール、ムスタンでの活躍とそれを支えた人々」

写真集



近藤亨先生の顕彰碑（加茂市）



近藤亨先生 左。右は筆者



子どもにリンゴの木の選定指導



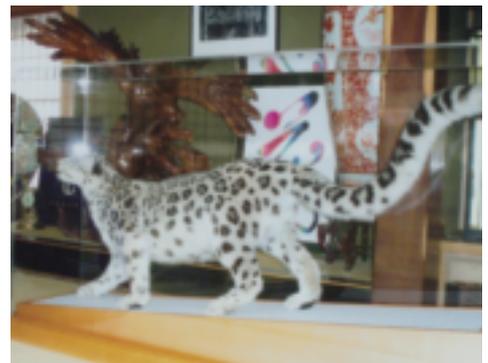
りんごの収穫出荷



給食中の子供たち



別れ、



雲豹の標本（長岡市立博物館）